

昭和電線ホールディングス

機関投資家ミーティング（2023年3月期1Q決算／エネルギー・インフラ事業説明会）Q&A

実施日時：2022年8月30日（火）

第一部 14：30～15：30／第二部 16：00～17：00

実施場所：東京都中央区日本橋兜町

Q1. 原材料高の影響、部材不足の影響、物流の影響について、足元の状況と今後の見込みについて教えてください。

A 1Qだけ見ても主に石油化学製品で5億円のプレッシャーが掛かっている。また、石油化学製品ではないがワイヤハーネス事業の端子の不足があるが、調達方法を工夫しながら納期対応に取り組んでいる。また、ワイヤハーネス事業は生産の主体を中国に移したので地産地消を進めている。原材料高で一番プレッシャーを受けているのはエネルギー・インフラ事業。去年後半から価格転嫁をお願いし、ほぼほぼ理解を得られている状況だが、反映されるまでのタイムラグはある。

Q2. 景気後退が懸念されていますが、御社の過去の景気後退時における状況と、当時と今回での違い、取り組みなどございましたら教えてください（SICONEX<sup>®</sup>やxEV向け製品など構造的に伸びる製品があるので相対的に影響が小さい、など）

A 景気後退の懸念というはあるが、エネルギー・インフラ事業がしっかりとした支えになってきている。エネルギー・インフラという事業からみると、それほど事業環境が悪いわけではない。建設用電線事業は下期から旺盛になってくるという見通しを立てている。電力システム事業は脱炭素の中で補強政策もあり、事業環境自体はそれほど悪いわけではない。しっかり値上げをできているというのは後押しになってくれると考えている。2019年度からROICを指標にして事業構造改革を進めてきたことの効果も出ている。

Q3. 電力インフラ（P13）のマーケット自体が増えるという見方についてもう少し解説をお願いします。変電所事業をどう考えるかについて解説をお願いします。

A 再エネのなかでネットワークをどう構成していくのが課題（P11）。ネットワーク構築の中で大規模変電、中規模変電かなりの規模感で構築されていくと見ている。その中でSICOPLUS<sup>®</sup>のデファクト化を進めることで売上を拡大していく。

Q4. HOYAの社外取締役役に就任された狙い、SWCCの経営への効果など教えてください。

A 我々と全く違うグローバル展開をされている企業。全く違う考え方で運営されているおり、経営者として参考になる。半導体の材料なども扱っており、モノづくりに軸足を置いている企業である。小さい池の大きい魚という言い方をしているが、戦って自分たちが勝てる市場を選んで圧倒的な利益を上げていく、という考え方に興味を持った。

- Q5. SICONEX<sup>®</sup>のシェアが大きく伸びる背景と収益性の違いについて教えてください。
- A 民需は当社がほぼほぼ9割シェアを取っている。電力のシェアを6割、7割、8割と順次上げていく戦略。電力と民需とはっきりと分けにくい、電力は長尺のケーブルの比率が高いので収益性は独自商品であるSICONEX<sup>®</sup>を中心とした民需の部品主体の事業の方が高い。
- Q6. SICOPPLUS<sup>®</sup>戦略（16P）は、自社対応だけでなく外注も増やすという認識で良いのですか？その分利益率は下がるのでしょうか？
- A 工事の需要がまだまだ多くとも自社だけでは賄えない。若干利益率は下がるかもしれないが協力企業にお願いする。
- Q7. SFCC について、プレイヤーが減ったことで値上げも可能なのでしょうか？もしくは、更なる値上げというよりはコスト削減などで利益幅を上げていくのでしょうか？
- A 昨年10月位から石化製品の値上がり、燃料費の高騰などもあり、お客様にご理解いただきながら値上げ分を認めてもらえるようになってきている。将来的には需要も落ちてくるということを考えると量を追わずに損益分岐点を下げ、売上を下げてでも利益が出るという改革をしていきたい。
- Q8. 販売価格への原材料への転嫁を通期+16億円見込む中で、1Qで+3億円だと出遅れているようだが、下期にかけて上がってくるのでしょうか？また期初計画より銅価格が下がっているが利益が出やすくなるという考え方で合っていますか？
- A 建設用電線3品種（SFCC扱い分）はほぼ価格転嫁できているが、富士電線が扱っている通信用は少し遅れている。しかし、恐らく追いついてくると思っているので年度を通して目標値について行こうと思っている。銅価格は足元で少し値下がりして8月からまた少し上昇という状況だが、期初想定していたものとそれほど変わらない水準なので影響が出るほどではないと見ている。
- Q9. 前期の4Qとの比較で通信・産業用デバイス事業が苦戦した理由、背景について教えてください。
- A いくつかあるが、一つは価格転嫁が遅れたこと。構造改革で青森（昨年12月に閉鎖）と伊勢原の工場から仙台事業所に移管したが、想定外に移管にてこずった。どこが悪いのかは見えているので上期で取り戻せるか下期まで掛かるか、というくらいの感じなので巡行に戻していく。海外のロックダウンがきいていてワイヤハーネスの事業が痛んだ。いくつかアゲインストがあるが、ほぼほぼ原因はカバーできているので2Q、3Qに戻していく努力をしている。
- Q10. SICONEX<sup>®</sup>のデファクト化について障害などがあれば教えてください。
- A デファクト化と言っても、一つの規格にまとめるということではなく、各電力会社がそれぞれに使っている部品をSICONEX<sup>®</sup>に統一していこうということ。現在、電力機器メーカーにはコンパクト、施工性が良いという点をメリットと感じていただき採用されている。電力機器メーカー側の部品と電力会

社側の部品がそれぞれオス材・メス材として規格を合わせる形になっていくのでそれほど大きな障害はないと考えている。

Q11. SFCC の損益分岐点-20%はどうやって達成するのですか。

A 売上高は銅価格に左右される。各品種の粗利率を上げることによって作る量を下げても収益が上げられるような目標を設定する。

Q12. (電装・コンポーネツ事業) 自動車の減産について、前回の説明で下期は回復の見込みとあったが足元の状況について教えてください

A 半導体不足などで自動車メーカーの稼働が戻っていない。それに伴いティア 1、ティア 2 の部品メーカーも在庫を持ったままの状態。無酸素銅、ヒーター線の稼働が落ちているのは今もそうなので、下期すぐからの立ち上げは難しいと見ている。そのほかの巻線は好調なので、無酸素銅、ヒーター線の分を巻き返せないかと考えている。

Q13. 決算の数値について、構造改革の効果は、今年度通期ではどのくらい出そうか教えてください。

A 20 年度は 8 億円、21 年度 14 億円 (累計) 出せた。22 年度は 20 億円 (累計) 位出せるかと思っていたが、通信ケーブルのところなど少し予想より下回るかなというところが出てきている。1Q の 2 億円は少し下目に出ている部分もあり、通年ではその 4 倍以上のものは出せると思っている。今年大きく期待したのは、工場の統合だったが 1Q は統合による混乱が出てしまっているところが目算と違うところだ。

Q14. 電力システムのところで、業界の中ではどういったスピード感でどういった期待がされているのか？その中で御社の取り組み、時間軸を伺いたい。ひたひた安定的な成長なのかある時期に一気に伸びるのかいかがですか。

A 政府主導募集型案件 14 兆円に加え、次世代送電網を整備するために 2 兆円を投資するという計画が上がっている。この中で 2 兆円の数字は中期経営計画には入れていない。恐らく 25 年位に立ち上がる話だと思う。14 兆円については相応に織り込んでいる。送電網の整備・増強は来年度以降と思われ、年率でリニアに伸びていくと考えている。

Q15. SFCC の (P19、P20) 業務プロセスの改善、物流改善についてどのような費用が発生して、どの程度の収益改善が見込めるのか教えてほしい。

A グループ内の IT 子会社アクシオと一緒に進めており、システムは少し投資がいるが大きな設備投資をしようとは考えていない。仕組みをどう変えていくかという話になっていく。来年度中にデジタルを使って視える化をやる。つなぐは 24 年度、25 年度には DX プロジェクトとして新しい取り組みをして 3 年計画でやりたい。

Q16. SICONEX<sup>®</sup>の生産能力 1.5 倍とあるが、工場全体の脱炭素の取り組みについて教えてほしい。生産時の使用電力および輸送手段はクリーンなのか？生産現場での省エネの取り組みなど、どこまで工夫しているのか教えてほしい。

A グループ全体では太陽光発電システムを入れて自家消費を進めていく。愛知工場や仙台事業所など既に導入しているが、相模原事業所ではクリーンエネルギーの調達も検討している。効率化によりCO<sub>2</sub>を発生させないということもやっている。

なお、グリーンエナジープロジェクトとしてCO<sub>2</sub>排出削減の目標を決めている。2013年度対比で2030年を目標に35%削減の目標を立てて取り組んでいるが、2021年度が終わったところで40%削減できている。このため今後目標を42~43%に引き上げて取り組んでいこうと思っている。三重事業所が銅の溶解炉の設備を持っている拠点で一番電気を使っている。ガス炉を電氣化し電気をクリーン化していくという取り組みなどで脱炭素に貢献していきたい。

Q17. 製品を作る時のCO<sub>2</sub>排出量は提示できるようになっていますか。

A スコープ1と2については提示できるが3についてはこれから。

以上